

健康福祉常任委員会

5 議案 可決
1 請願 不採択

各種の福祉施策や子育て支援、高齢者支援、健康づくり、消防に関する事などの議案等を審査しています。

行田市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例

問 水火災の出動費用弁償である3千円という額は、何を基準に設定したのか。

答 県内51の消防団の状況を調査したところ、現在、本市より高額の団体は28団体あり、そのうち、2500円から3500円の範囲が20団体あった。また、県内平均額は約2500円であったため、これらの額を踏まえ、設定した。

問 休団に関する規定のうち、やむを得ない事情とは、どういったことを想定しているか。

答 出張や転勤等により、長期にわたり本市から離れなければならない事情等を想定している。

問 これまで市で行ってきた特定保健指導のうち、動機づけ支援を委託する理由は、

答 特定健診の受診結果は、

平成31年度行田市国民健康保険事業費特別会計予算

問 平成27年度から早期受診特典として、抽選で20名に5千円分の市内共通商品券を贈呈しているが、受診率の上昇に繋がったとはいえない。そこで、平成31年度からは受診



審査風景

受診の2、3か月後、国保連を経由して市へ届き、その後保健指導の勧奨通知を送付していたが、時間を要するためか、参加者が伸び悩んでいた。そこで、医療機関において受診結果が出た際に、直接保健指導を行えるようにするためである。

問 特定健診には、早期受診特典があると聞くが、効果はあるか。

答 平成27年度から早期受診特典として、抽選で20名に5千円分の市内共通商品券を贈呈しているが、受診率の上昇に繋がったとはいえない。そこで、平成31年度からは受診

者全員を対象とし、抽選で200名に行田市総合体育館のトレーニング室の利用券を贈呈し、常勤のトレーナーの指導のもと、フレイル[※]予防の面から健康長寿を目指すという事業を検討している。

※フレイル：健康な状態と要介護状態の中間の状態を表す

平成31年度行田市介護保険事業費特別会計予算

問 特別養護老人ホームの待機者数は平成30年4月1日現在、178名とのことだが、待機者の方へどのような対応を考えているか。

答 ショートステイや小規模多機能型居宅介護、定期巡回随時対応型訪問介護看護など、在宅生活を支えるサービスを有効に利用していただきたいと考えている。

平成31年度行田市一般会計予算

○保育コンシェルジュ

問 保育コンシェルジュの新規設置は、正規職員の人件費

節減がねらいか。

答 保育コンシェルジュは、保育園入所に特化した相談業務を行う。現在は正規職員が通常業務の一部として行っているものの、保育園入所に至らなかつた場合のその後の支援や相談等を十分に行うことができなかった面がある。そういった部分を解消し、さらに保護者に寄り添った対応を目指して設置するものである。

○認定こども園

問 施設整備費補助金の内容は、

答 平成32年4月1日からの認定こども園への移行を目指し、来年度、やごう幼稚園が施設整備を行う。新たにゼロ、1、2歳児の受け入れに必要な保育室、調理室などを備えた施設を、現在の園舎の隣に建設する計画であり、それに対する国の交付基準に基づく補助金である。

○糖尿病予防検体測定

問 糖尿病予防検体測定負担金事業の効果はあるか。

答 市内12の指定薬局において糖尿病予防検体測定を行い、即時に測定結果を本人に知らせ、数値が高い場合は、薬剤

師が医療機関への受診勧奨や運動の動機づけを行っている。平成29年度に実施したアンケートでは、糖尿病の疑いがあった方のうち、医療機関を受診した、運動を心がけた、食生活を見直したという回答結果を得たことから、糖尿病の予防や早期治療に繋がる事業であると認識している。

○消防自動車購入

問 北分署に配置するというCD-1型消防自動車とは、どのようなものか。

答 水と薬剤に圧縮空気を加えて泡を生成することにより少ない水量で消火可能なCAF S装置と言われる装置を備え、さらに水槽を搭載しており、これらを有効に使い、現場に消火栓がなくてもすぐに消火作業を開始できるというものである。



CD-1型消防自動車